

## 小谷地遺跡の出土部材調査

**遺跡の概要** 小谷地遺跡は秋田県男鹿市脇本に所在する。昭和39年から3カ年にわたる発掘調査の結果、多量の木製部材が出土し、脇本埋没家屋として注目された。平成21年6月から秋田県埋蔵文化財センターが開始した発掘調査は、過去の調査地点から東に約70m離れた地点でおこなわれ、建物か堰堤の可能性がある遺構（SB01）、掘立柱建物（SB17）、足場状遺構（SX04）、道路状遺構（SM24）などが発見された。奈良時代から平安時代を中心とする遺構と考えられ、その多くが木製部材をともなう。

とくにSB01は発掘調査中から埋没家屋と考えられたため、当研究所に出土部材の詳細な調査が委託された。しかし、その後の発掘調査によって、SB01は堰堤などの土木構築物である可能性が高まった。当初の目的は埋没家屋の部材調査であったが、発掘調査の成果を受け、出土部材の観察から所用遺構が建物なのか土木構築物なのかを判断するという視点も重要なになってきた。

**出土部材** 秋田県埋蔵文化財センターによれば、出土した木材は3000点以上に達する。そのうち特徴的な88点の調査をおこなった。調査の内容は実測図の作成と写真の撮影である。

出土部材は板材・杭材が大半を占める。スギの大径材を打ち割ってつくられた材料が多く自然木は少ない。板材は年輪に沿って割られるが、断面の湾曲はわずかであり、大径材の外輪部と考えられる。SB01などに使用していた径10cm程度の杭も大径材から採材されている。すなわち大部分が大径材数本から採材され、部材相互は兄弟姉妹の関係となる可能性がある。

板材はほとんどが厚さ2cm前後の板目材であり、上下と両側面の計4面が割肌を呈し、木口をヨキで切断する（図95）。SB01の板材は一端をヨキで矢板状に尖らせるものが多い（図91）。板材の大半が板目材であるいっぽう、厚さ4cm程の柾目板も出土している（RW316、図96）。柾目板は打ち割り製材で造るのは難しく、現状ではヤリガンナあるいはノコギリの痕跡は確認できないため、その採材方法が明確でない。製材中の失敗作である可能性、あるいは後述するような何らかの部材から転用された可能性を考慮しておきたい。

表面の加工はチョウナやヤリガンナのような道具で仕上げた痕跡がない。杭や板の先端を加工するのもヨキではつた程度であり、土中に埋まって見えない部分である点を考慮しても、化粧面を意識した仕上げをもつ材はほとんどない。

部材には他の部材との接触による当たり痕跡がみられる。SB01の板材RW185には、幅3cmの凹みがある（図93）。出土状態を写真や遺構実測図で確認したところ、出土時に下にあった部材の圧痕であることがあきらかになった。これと反対の面には、先端部にコの字型の風食差がみられるが、出土時に上に位置した板材と接していたため生じたものである（図97 出土時上面）。これらは出土時に隣接していた部材による痕跡であるが、出土状況とは関係ない当たり痕跡もみられる。SB01の板材RW316の出土時下面には、径13cmの円形の凹凸があり（図92）、風食差によるものと考えられるが、下に位置する部材の状況とは関連がなく、SB01使用以前の痕跡と考えられる。

また、SB01とSX04を中心に検出遺構で使用していない穴や欠きをもつ部材が数点あった。すなわち、それ以前に何らかの構築物の部材であったものを転用したことはあきらかである。残念ながら転用以前の用途が判明するものはほとんどない。そのうちSX04の板材RW273は、長さ380cm、幅24cm、厚さ2cmで、一端に一辺1.3cmの角孔（刃幅4分のノミで穿孔）をもつ（図93）。このような部材は北秋田市の胡桃館遺跡に類例があり（B1建物周辺出土材123・124、長さ351cm、幅20cm、厚さ2cm）、そこでは屋根板の可能性を指摘している（『胡桃館遺跡埋没建物部材調査報告書』奈文研・北秋田市教委、2008）。継手や仕口、釘穴のない打ち割りの板材については、類例に胡桃館遺跡B1建物の壁板がある。しかし、今回小谷地遺跡で出土した板材には、胡桃館遺跡B1建物の壁板のような顕著な風食差はみられない。壁板の下部を地中に埋めるような、同様の構造であったかは検討の必要がある。さらなる類例の増加を期待したい。

以上からみて、今回調査した部材には、精巧な継手や仕口、チョウナやヤリガンナによる仕上げ、また釘穴などの部材どうしを固定する痕跡はほとんどなく、出土遺構において建築部材として用いられた可能性は低い。SB01に関しては土木構築物であり、その他はごく簡単な塀や建物と考えてよいであろう。

（番光）

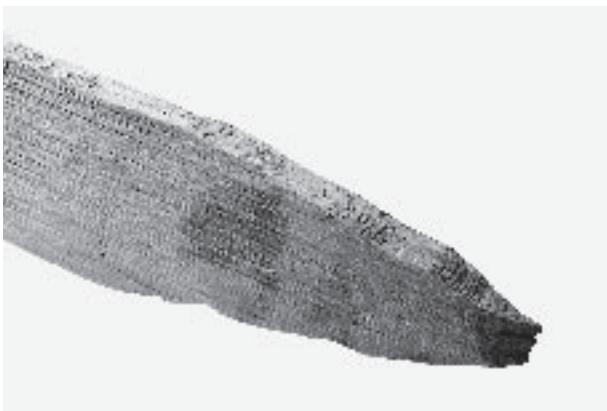


図92 矢板状の加工痕 (SB01 RW316)



図93 他部材の当たり痕跡 (SB01 RW185)



図94 ノミで穿孔した角穴 (SX04 RW270)

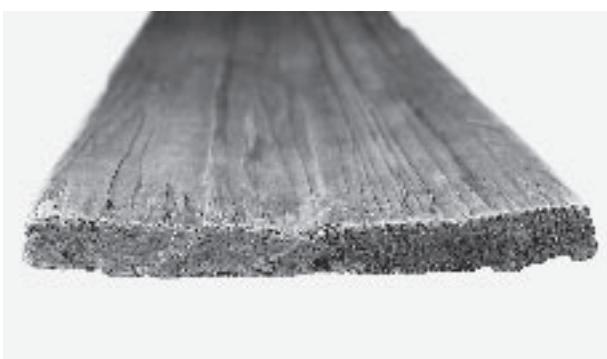


図95 木口に残るヨキ痕 (SX04 RW261)



図96 SB01 RW316 1:10



図97 SB01 RW185 1:10

図98  
SX04 RW273 1:20